

ピースクラブ通信

No.25

発行 社会福祉法人 ピースクラブ
 住所 〒556-0014 大阪市浪速区大国1丁目1-1
 連絡先 TEL&FAX 06-6647-2077
 Eメール peaceclub@s2.dion.ne.jp

沖繩・伊江島平和学習会

「平和のつどい」助成金「まなまな」シンポジウムに参加

上田 友子

ピース通信20号に、昨

年の「わびあいの里平和学習会」に参加した人たちの執筆者ひとりひとりの思いを簡めた、そして臨場感のある文を掲載されているのですが、今年も参加した記録として、拙い報告をいたします。

3月5日(金)から9日(火)まで4泊5日、ピースくらぶ13名の旅である。大阪の気温は8度ぐら

い。何枚も着重ねて家を出たが、沖繩は26度。那覇空港に着いた途端に、衣類をほとんどんかばんにしまい込む。まず3台のレンタカーに分乗して首里城を観光する。沖繩戦によって首里城はアメリカ軍の猛烈な砲撃を受けて

炎上し、地上からその姿を完全に消してしまったのである。それから47年ぶりに復元されたという。城門や建築物を参観して、多少琉球王朝の面影を味わったことである。一日目はロイヤルオリオンホテルに宿泊。このホテルは国際通りの、観光客にとって打って付けの場所であり、夕食のた

めに揃って国際通りに繰り出す。リクエストにより、食べ放題の焼肉組と、沖繩郷土料理組に分かれる。焼肉組は半端ではない健啖家ぶりを発揮したこと。2日目、本島を北上し、フェリーで本部港から伊江島に向う。レンタカーは1台だけ積み込んであったので、「土の宿」までウォーキングする。伊江島の象徴である城山を中心に、平地が広がっていて、その一本道を歩いて行く。島の木は低く、つややかな葉をつけ、ブーゲンビリア、ハイビスカスが色濃く、鮮やかに咲き満ちている。タバコ畑があり、牧場のおい、まことに穏やかで平和な島である。港から「土の宿」まで約4キロメートル、みんな足が速い。元気だ。

わびあいの里「反戦平和資料館」を見学する。最初に阿波根昌鴻さんの思想、理念を集約したパネルが眼に飛び込んでくる。伊江島が沖繩戦の戦場であったこと、今も島の32パーセントが米軍に奪われたままになっっていることを、平和ボケの私はすっかり忘れていた。今歩いてきた平和のどかな風景と、過去の苛烈な状況の両極に忽然と私の頭の中がふるえた。そして、パネルの

言葉の「手を自分の肩より上げるな」と非暴力の抵抗の姿がより強いものであると納得した。お恥ずかしい事ながら、私は阿波根 昌鴻さんを知らなかつた。資料館は、沖繩・伊江島が被ったあらゆる傷痕が展示されている。膨大な葉巻の数。すべて阿波根さんが拾い集められたのである。鉄兜も錆びて破損しており、バラシユートや衣類も触ればパラパラとこぼれ落ちそうである。私はこうした歴史の記録もいつかは風化していくのだからなあと思いながら見学した。

ふれあいの里では、昼食を用意して待っていてくださったとのこと、おやつにぜんざいをご馳走になる。沖繩の人の人情の厚さを感じる。4時からの学習会の参加に向けて、約2キロメートル離れた公民館に移動。脇坂さんの運転で1台の車でピストン移送。ほんとにご苦勞様です。次に学習会の内容を簡単に紹介しておこう。

基調報告、シンポジウムは、沖繩戦と記録の実情から、記録すること、市民の権利、財産、命を守ることであり、次の時代の者がどう受け継いでいくのか、記録の難しさをテーマにしたものであった。「岩波・大江裁判」と「教科書検定問題」の中に真実と真実でない無数の事実のカードがあり、事実のカードは、真実を示すもののカード

を隠してしまふ。真実を見極める証拠が沖繩平和資料館・阿波根 昌鴻資料に残されている。阿波根 昌鴻資料を読み解くことによって統治者の視線でなく、住民の側から見た沖繩現代史の重要な記述が可能である。こうした内容は、私にも、とても興味をそそるものであった。記録をいかに保存するか、もちろん重要な課題であるが、テーマが保存法の研究になると、専門的になりすぎてあまり興味が持てなかつた。ぴーすくらぶのメンバー、よく我慢して静かに坐っていたことよ。初日の終了は9時半。(も

つともぴーすくらぶのメンバーは夕食の弁当をもらって6時には退出した) 夜の島は街灯がわずかでほんとうに暗い。また脇坂さんにピストン輸送していただく。明け方まで春の嵐のように雨がたたきつける。3日目、晴れ男・晴れ女のお蔭で雨は具合よくあがってくれる。それにして暑い。私たち4人5人だけが学習会に参加。1時過ぎに伊江島を後にする。城山を頂く伊江島を遠ざかる風景は、平和でこの上なく名残惜しいものとなる。雲も切れて陽光に東シナ海は緑色に輝く。 毅君のたつての希望もあり、海洋博公園水族館へ。その間私たちは辺野古に行かせて貰った。美しい砂浜、明媚な岬、春はヤドカリの天国である。鶯の声も聞える。しかし、基地移転予定地としてバリケードが張られ、バリケードの向こうに行くことは出来ない。「侵入者は、日本国法令により罰せられる」と立て札が。 那覇では、ニユーオリオンホテルで2日連泊となる。 4日目、最初の予定地である佐喜真美術館に着いたが、修学旅行の観光バスが何台も駐車しているの、割愛する。今、沖繩プームとか。若い世代にも基地の問題、歴史を認識する意識が育っている現われであればいいのだが。 読谷でポリウムたつぶりの昼食を摂り、琉

球村を観光する。ぴー
 すくらぶのメンバーはほ
 つほつお土産を買いはじ
 る。一人一人、品物の選
 び方に個性、感性がある。
 郁也君は、ずうっと満君
 に付き合っていたな。
 5日目、沖縄最後の
 日は、生憎の雨。ホテル
 から空港に直行する。売
 店を物色などしているう
 ちに、時間はすべるよう
 に流れていく。ゆりえち
 ゃんとお父さんの長い旅
 は今回初めてだそうであ
 る。
 無事関西空港に到着。
 春さんの日配り気配り采
 配に感謝。大阪の気温は
 8度。
 先月、宮良康正さん
 のライブがあり、沖縄民
 謡に堪能しました。烏々
 を廻る歌に「ああ、行っ

てみたい」という願いを
 そそられました。早速に
 こうして沖縄行きにお誘
 いだき、老いの身に
 「知る、学ぶ、交わる、遊
 び楽しむ」喜びを頂き、
 心から感謝しています。
 ありがとうございます。

●ピースクラブ写真館●



▲HIPHOPライブの大音量でもご機嫌なおっくん





● 神戸花鳥園にて
こうべ かにやうえん



☆ お花に囲まれてポーズ
はな かの



こんなクイズ出来ますか

急に原稿を依頼され何を
書こうか悩んでいるうち
に締め切りが近づいて
きてしまいどうしようか
と考え込んでしまってい
ました。

そんな時、ふと思いつい
たのはこの紙面を使つて
読者の皆さんと何か出来
ないかと言ひことでした。

普通の文章だと大抵書き
っぱなしで終わってしま
います。よくても、「面白
かったよ」と言われるく
らいです。

でも、そうではなくその
書いた物が、昼休みのち
よつとした話題になつた
り、紙面での交流が出来
ればもっと楽しい機関誌
になるのではないでしょ
うか

この試みとして私が以前
はまったクイズを出して
皆さんに回答して頂くこ
うと思ひます。簡単そう
で思ひます。簡単そうで
なかなか解けないので意
地になつたり、解けたと
思つても解けてなかった
りして、ずーと、頭の片
隅に残り解けないといラ
イラする人もいるかも？
（少しオーバー）

そんなクイズなので皆さ
ん挑戦してみして下さい。
正解者には、編集長の
佐伯君から何か送られる
かも？？？

では問題です
「ここに12個のパチンコ玉
があります。しかし、
12個の玉の内11個は皆重
さが同じで1個だけ重さ
の異なる玉があります。

この重さの異なる1個の
玉を上皿天秤を3回だけ
使つて探し出すにはどの
ように計ればいいでしょ
うかただし、他には何も
使つてはいけません」
問題は、たったこれだけ

身体・人との対話 氣の交流・共鳴を求めて

ピースヨガ

です
簡単でしょ？
皆さんご存じだと思いま
すが上皿天秤というの
は、一方の皿に試料を他
の皿に分銅をのせ
て釣り合わせて重さを量
る秤です。

では皆さんお答えをお待
ちしております。
お答えはメールで
peaceclub@s2.dion.
ne.jpまでお送り下さい。
(森本)

みずの やすし
水野 靖

ピースクラブでヨガを
紹介させてもらつて約
15年位になるのだらう
か。当初はカジさんと退
職したかさねちゃんと二
人でシコシコ初め、その
後河野さん親子や岸本さ
ん、初枝さんが加わり現
在に至ります。

究会で公開している野
口整体の流れをくむ調息
整体法での基本的なメソ
ッド―自働運動や愉氣法
―を取り入れているので、
巷のヨガとは趣を異にし
るのだらう。

ヨガとはアサナ、体操
のようなものを通じて身
体の様々な部位の緊張
と弛緩を繰り返して、身体
と対話することによつて
氣（エネルギー）のとお
りの良い筋肉を保ち、呼
吸法を駆使し（氣の流
れを高めるものから繊細
に統御していくものまで
ある）、瞑想に入り無我の
境地から大宇宙（自然）
との一体化を実現し、悟
りへと至るといのが定
説だ。

教室では最初に手や足を軽くほぐしておき、合掌体操から入る。これはインドでは太陽礼拝のポーズといつて自然への感謝を身体を使って表わすわけだ。アサナ（体操）は前・後ろ・捻じりのポーズを各種取り入れ身体のバランスを計る。

後は二人組の体操（他のヨガではやらないだろうが）でお互いの身体を知り、快感を育て、プレストプファイヤーという呼吸法でエネルギーを高めていく。これだけでも結構身体がほぐれてワクワク感がでてきます。

あまりキツイことばかりやっているという「もう、ええんちやうん」という表情や気が充滿して行くので「極楽コース」を

設け二人組で足裏や足裏筋肉をほぐしたり、背中の緊張部を弛めるメソッドを実践しています。そしてこれは誇れることですが全員が愉氣を楽しんでいられること、愉氣とは相手の身体の色になる処に当て深い息を保ち「氣」を集中する本能的なものだが、とても心地良く治療効果も大きいのだ。介護の仕事を担う人だけでなく万人にお奨めの技法です。

まあ、あまり難しいことは考えず身体のことを色々楽しみたい方は是非どうぞ！

自分一人で身体を鍛錬し、瞑想に耽り、世を達観するという独りよがり、のヨガ病という病があり、

生身の人間の感情を感じ取れなくなっていく病のことだが、ピースヨガではこういう病にかかっていくゆとりはまったくない。アサナや死体のポーズの途中でも雑談は飛び出すは、ヤジはとぶは、しつとりとヨガを楽しんでいる人からみるとどう映るのだろうか。

しかし、いかなる環境のもとであれ、強固な雑念・妄想に取り付かれようと集中力を高め、氣のトレーニングを遂行するのがヨガ・整体の真髄である。そして木曜夜のアフターヨガはアルコー

ル&食事会で気の交流を最高点に誘導していく、この傾向は元中心感覚研究会ARR派（アルコー派）の急先鋒であつ

た私に磨きをかけてくれた。

冗談はさておき中心感覚研究会では記念イベント、忘年会、岡島会長追悼会・一周忌とピースの人達には大変お

編集後記

佐伯利也

世話になり感謝しています。今後もしよろしく。これからは私も発展途上、今後も互いに研鑽していきましよう。期待しています。

前号の挨拶に書いたように私は文章を読むことも書くことも苦手です。本来なら、こんな文章を載せたくもないのですが、今回私と共に通信に関わってくれたかじさんの助言で毎回何か書くことにしました。と言っても何も書けません。仕方ないから私の不思議な点を毎回一つずつ書くことにします。

私は、2月のカニツアー

に参加しました。旅行中の食事中に河ちゃんと言君と猿ちゃんが昔のブ口野球や歌の話をしていた。私は、得意分野だと思ひ会話に参加しようとしたが出来なかつた。昔の記憶もない自分に驚いた。

私の好きな野球のことでさえ気軽に人と会話が出来ない自分に出会いました。ショックをうけた。